

令和3年度 清瀬市立清瀬第七小学校			学校評価計画		
学校の教育目標			育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動		
○健康で強い子 ○思いやりのある子 ◎よく考える子			【育成を目指す資質・能力】 ○健康で強い子…すすんで健康保持増進に努める意欲、基礎的な運動の技能、健康についての知識 ○思いやりのある子…他者の気持ちを理解する力、共感できる力、他者との違いを認める力 ◎よく考える子…基礎的な知識・技能、論理的思考力、問題発見・解決能力、自分の思いや考えを豊かに表現する力		
目指す学校像（ビジョン）			【特色ある教育活動】 ◎学校図書館を活用した問題解決能力の育成…調べ学習室の充実と活用、タブレット端末などICT機器の活用促進 ○障害者理解の促進…通常学級と特別支援学級との交流学習、特別支援教室についての情報発信		
【目指す学校像】 向学心あふれる学校 保護者、地域と力を合わせて子供を育てる学校 【目指す児童・生徒像】 互いに認め合い、支え合い、高め合う児童 【目指す教師像】 向上心をもち、自分の指導に誇りをもてる教師					
前年度までの学校経営上の成果と課題			【成果】○学年×10分の家庭学習を8割の家庭で実施（家庭学習の定着） ○カリキュラムマネジメントの視点からの年間指導計画の改善 ○調べ学習室やタブレット端末の日常的な活用 ○学校ホームページによる情報発信の定着 【課題】○タブレット端末の活用の一層の促進（問題解決能力及び情報活用能力の育成） ○体育授業、体力向上の取り組みの一層の充実（体力向上） ○特別支援教育のさらなる充実および保護者への啓発促進 ○学校支援本部（ななサボ）と連携した地域素材・人材を生かした活動の充実		
柱	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	取組指標（評価基準）	成果指標（評価基準）
確かな学力の向上	基礎的な知識・技能を身に付けさせる。	「学ぶ楽しさ」「わかった、できた喜び」を再認識させるとともに、学びに向かう意欲が高められるような授業を実践する。	授業改善推進プランの作成などを通して授業改善を行い、児童の学習に対する満足度を高める。	4 授業改善推進プランの作成などを通して授業改善を行った(全教員)	4 「学ぶ楽しさ」「わかった、できた喜び」を実感できた児童(90%以上)
				3 授業改善推進プランの作成などを通して授業改善を行った(教員の90%以上)	3 「学ぶ楽しさ」「わかった、できた喜び」を実感できた児童(80%以上)
				2 授業改善推進プランの作成などを通して授業改善を行った(教員の80%以上)	2 「学ぶ楽しさ」「わかった、できた喜び」を実感できた児童(70%以上)
				1 授業改善推進プランの作成などを通して授業改善を行った(教員の80%未満)	1 「学ぶ楽しさ」「わかった、できた喜び」を実感できた児童(70%未満)
		家庭と連携しながら毎日学習する習慣を身に付けさせ、基礎・基本の定着を図る。	児童が家庭学習に(学年×10分以上)取り組めるよう、内容や分量などを精選する。	4 家庭学習の提供を毎日実施(全学級で実施)	4 家庭学習の実施時間(学年×10分以上)達成児童(90%以上)
豊かな心の育成	学校内外で発揮できる正しい規範意識の形成及び人権感覚をもった児童を育てる。	互いに認め合い、共感し合える関係を築き、人権尊重の精神を培う。	登下校時のあいさつ励行や来客への会釈など、継続的な生活指導の実践を行う。	3 家庭学習の提供を毎日実施(実施学級90%以上)	3 家庭学習の実施時間(学年×10分以上)達成児童(80%以上)
				2 家庭学習の提供を毎日実施(実施学級80%以上)	2 家庭学習の実施時間(学年×10分以上)達成児童(70%以上)
				1 家庭学習の提供を毎日実施(実施学級80%未満)	1 家庭学習の実施時間(学年×10分以上)達成児童(70%未満)
		いじめの未然防止に向けた取り組みを行うとともに、児童の人権感覚を豊かにする。	道徳授業、体験的活動を学期に3回以上行い、人権や人とのふれあいに対する意識を高めていく。	4 学級における定期的なあいさつ指導の実施(全教員が実施)	4 進んであいさつができている児童(90%以上)
				3 学級における定期的なあいさつ指導の実施(全教員中90%以上)	3 進んであいさつができている児童(80%以上)
健やかな体の育成	自己の体力向上や健康維持・増進に取り組む習慣を身に付けさせる。	心と体のバランスも含めた体力・健康に対する意識を高める。	晴れた日の休み時間での外遊びを励行し、朝遊びの時間も活用しながら、児童の体力の向上を図る。	2 学級における定期的なあいさつ指導の実施(全教員中80%以上)	2 進んであいさつができている児童(70%以上)
				1 学級における定期的なあいさつ指導の実施(全教員中80%未満)	1 進んであいさつができている児童(70%未満)
		健康的な生活を送るための習慣づくりを図る。	早寝早起き・歯磨き・食事・衛生・新しい生活様式といった健康や食に関する指導を、年間10回以上行う。	4 いじめ・人権に関する話し合いや体験的活動の実施(全学級)	4 保護者の学校によるいじめ・人権に関する取り組みへの満足度(90%以上)
				3 いじめ・人権に関する話し合いや体験的活動の実施(90%以上)	3 保護者の学校によるいじめ・人権に関する取り組みへの満足度(80%以上)
				2 いじめ・人権に関する話し合いや体験的活動の実施(80%以上)	2 保護者の学校によるいじめ・人権に関する取り組みへの満足度(70%以上)
特別支援教育の充実	特別支援・教育相に関する教育資源を活用し、児童が求めるニーズに応じた適切な支援を行う。	交流教育を通して、児童の豊かな人間性を育む。	通常学級と特別支援学級との交流や共同学習を年5回以上行う。	1 保護者の学校によるいじめ・人権に関する取り組みへの満足度(70%未満)	1 保護者の学校によるいじめ・人権に関する取り組みへの満足度(70%未満)
				4 学級における外遊び実施児童の割合(全児童中90%以上)	4 体力が向上していると実感できた児童(90%以上)
				3 学級における外遊び実施児童の割合(全児童中80%以上)	3 体力が向上していると実感できた児童(80%以上)
				2 学級における外遊び実施児童の割合(全児童中70%以上)	2 体力が向上していると実感できた児童(70%以上)
				1 学級における外遊び実施児童の割合(全児童中70%未満)	1 体力が向上していると実感できた児童(70%未満)
本校の特色	問題発見・解決能力や情報活用能力を育成する。	学校図書館や調べ学習室、一人一台端末を活用し、児童の問題発見・解決能力や情報活用能力を育成する。	学校図書館や調べ学習室、市立図書館の蔵書、タブレット端末などのICT機器を活用した授業を行う。	4 食育・健康に関する学級指導年間10回以上実施(担任の90%以上)	4 食事や健康について意識的に気をつけている児童(90%以上)
				3 食育・健康に関する学級指導年間10回以上実施(担任の80%以上)	3 食事や健康について意識的に気をつけている児童(80%以上)
				2 食育・健康に関する学級指導年間10回以上実施(担任の70%以上)	2 食事や健康について意識的に気をつけている児童(70%以上)
				1 食育・健康に関する学級指導年間10回以上実施(担任の70%未満)	1 食事や健康について意識的に気をつけている児童(70%未満)
				4 5回以上実施した学年の割合(90%以上)	4 保護者の交流及び共同学習に対する肯定的評価(90%以上)
	地域との連携を深め、地域に開かれた学校を実現する。	学校情報を地域・保護者に積極的に発信する。	ホームページの更新回数を年間600回以上行う。	3 5回以上実施した学年の割合(80%以上)	3 保護者の交流及び共同学習に対する肯定的評価(80%以上)
				2 5回以上実施した学年の割合(70%以上)	2 保護者の交流及び共同学習に対する肯定的評価(70%以上)
				1 5回以上実施した学年の割合(70%以下)	1 保護者の交流及び共同学習に対する肯定的評価(70%未満)
				4 個別支援計画及びアセスを年2回以上作成し考察(90%以上の学級で実施)	4 保護者の特別支援に対する肯定的評価(90%以上)
				3 個別支援計画及びアセスを年2回以上作成し考察(80%以上の学級で実施)	3 保護者の特別支援に対する肯定的評価(80%以上)
				2 個別支援計画及びアセスを年2回以上作成し考察(70%以上の学級で実施)	2 保護者の特別支援に対する肯定的評価(70%以上)
				1 個別支援計画及びアセスを年2回以上作成し考察(70%以下の学級で実施)	1 保護者の特別支援に対する肯定的評価(70%未満)
				4 学校図書館やICT機器を活用した授業を毎日実施(全学級で実施)	4 学校図書館やICT機器の活用により学習理解の高まりを実感できた児童(90%以上)
				3 学校図書館やICT機器を活用した授業を毎日実施(90%以上の学級で実施)	3 学校図書館やICT機器の活用により学習理解の高まりを実感できた児童(80%以上)
				2 学校図書館やICT機器を活用した授業を毎日実施(80%以上の学級で実施)	2 学校図書館やICT機器の活用により学習理解の高まりを実感できた児童(70%以上)
				1 学校図書館やICT機器を活用した授業を毎日実施(80%未満の学級で実施)	1 学校図書館やICT機器の活用により学習理解の高まりを実感できた児童(70%未満)
				4 更新が年間600回以上	4 保護者の情報発信に対しての肯定的評価(90%以上)
				3 更新が年間550回以上	3 保護者の情報発信に対しての肯定的評価(80%以上)
				2 更新が年間500回以上	2 保護者の情報発信に対しての肯定的評価(70%以上)
				1 更新が年間500回未満	1 保護者の情報発信に対しての肯定的評価(70%未満)